



にしじ

謹賀新年 新年のご挨拶2014

.....P2~P6

- 新年のご挨拶：畠中伸介企業長、武田明雄病院長 P2
- 新年のご挨拶：深田順一副院長・ITセンター長・臨床試験管理センター長
谷木利勝副院長・感染対策センター長 P3
- 新年のご挨拶：吉川清志副院長・総合周産期母子医療センター長、医療安全管理センター長
山下元司副院長・こころのサポートセンター長 P4
- 新年のご挨拶：西岡豊地域医療センター長、喜多村泰輔救命救急センター長 P5
- 新年のご挨拶：森田荘二郎がんセンター長、岡部学循環器病センター長、 P6
- 地域医療連携病院のご紹介 Vol.71 医療法人若水会 むろとびあ医院 P7
- 高知医療センター・イベント情報 P8



JANUARY2014 Vol.99



謹賀新年

日の入りも随分と早くなり、夜空に『高知医療センター』のライトが左手にひときわ輝いて見えます。

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —



企業長 畠中 伸介

新年明けましておめでとうございます。

皆様も新たな気持ちで新しい年を迎えられたことと思います。

私事になりますが、家から歩いて30分ほどで前の浜にいきますので、元旦には初日の出を拝みにしています。初日の出に向かいますと身が洗われるというか、またこうして新たな年を迎えられる喜びが自然と沸いてきます。そして、帰りに雪溪寺に初詣をして、家族で御屠蘇と御節をいただくのが元旦です。これで、今年もがんばろうという気持ちになります。(写真は昨年の初日の出です)



さて、昨年の1年をあらわす漢字に「輪」が選ばれました。東京五輪招致とか震災支援の輪の広がりとか言われています。医療でも「輪」を大切にしなければならぬと思います。

県民の皆様の医療に対する期待に応えることは、一つの病院だけで応えることのできないことです。それぞれの地域の医療機関さらには消防、福祉などの関係機関が連携を強め、高知県全体で応えていくことが大事なことです。

今、国で進められています医療制度改革の中でも医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実、介護との連携などが強く求められており、医療については、病院完結型から地域完結型へとわれています。そのために必要なものが「輪」ではないかと思えます。もう一つの大事な「和」を大切にしながら地域の皆様との「輪」を広げ、それが一つの大きな絆の「輪」になって初めて実現できるとの思いで、日々の病院運営に努めていきたいと思えます。

今後とも、地域の医療機関をはじめとする関係機関の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。そして、本年が皆様にとって飛躍の年となることをご祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。本年も高知医療センターをよろしくお願いいたします。



病院長 武田 明雄

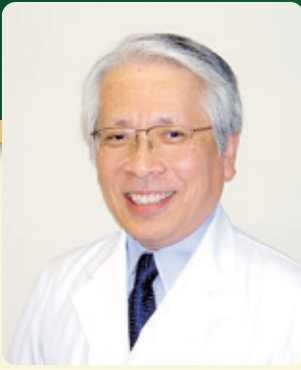
新年明けましておめでとうございます。

厚生労働省は、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて病床機能再編成を計画しています。現在の一般病床を高度急性期、急性期、亜急性期、長期療養等に移行するもので、その前段階として、来年度以降の診療報酬改定、2018年からの第7期保健医療計画策定があります。

医療センターとしては、高度急性期、急性期としての機能を担う病院であると認識しており、昨年度より実施中の新中期計画では急性期機能強化として「救急」、「手術」、「入院機能強化」に重点的に取り組んでいます。救急関係では、喜多村センター長の下、スタッフも徐々にではありますが増加しており、救急車応需率、ドクヘリ運行回数も上昇しています。手術関係でも、手術件数は前年より月平均20件増、手術室稼働率も70%代

と全国的にもレベルが高くなっていますし、来年度はハイブリッド手術室が新設され、ステント手術等さらなる機能強化を図っていく予定です。入院関係では、昨年よりSCU6床、HCU12床を増設し、ICUや一般病床と連携し重症度に応じたベッドコントロールを行っています。さらに産科病床8床、GCU3床増と周産期医療にも強化を図っています。

ただ、当センターが急性期機能を発揮するには、県内の他の医療機関との前方および後方連携が重要です。新中期計画でも「院外連携の強化」を重点項目にあげており、紹介、逆紹介の増加に努めています。そのために地域連携室ではスタッフをあげて、電話対応の迅速化、診療科ホットラインの精度上昇等とともに、引き続き各郡医師会理事会や病院訪問を実施し、医療機関のスタッフの皆様と「顔の見える関係」を築いていきたいと思えますので今後ともご支援よろしくお願いいたします。



副院長・ITセンター長 臨床試験管理センター長 深田 順一

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかな新年をお迎えのことと拝察いたします。心からのお喜びを申し上げます。日頃は高知医療センターの地域医療連携の取り組みに対して深いご理解とご支援を賜っておりますこと、この場を借りまして改めて厚く御礼を申し上げます。

昨年、本院にとっての大きな課題の一つは日本医療機能評価機構による病院機能評価の再受審でしたが、先月、これも何とか終了し、今はその評価を待つ日々です。我々の受ける業務評価としては、最近ではDPC参加による医療提供体制全体への評価としての機能評価係数Ⅱがあり、ここでは制度発足以来、本院は連続して全国トップ10以内を維持しています。しかし評価機構による評価はこれとはまた違い、医療機能はアウトカム評価というよりそこに至るプロセス評価という意味合いが強いものであり、我々も緊張して業務手順の見直しを行いました。やはり現場に他者の眼が入る、

ということは他にはない意味があり、その結果を注目しているところです。

ITセンターの方は「くじらネット」の拡大に向けて閲覧をしていただける職種を医師以外にも拡大していく方針も既に決まっており、今年はこれを形あるものになりたい、と思っています。また本院医師が病院外に居ても、必要に応じて病院の電子カルテを閲覧して診療に参加できる「リモートカルテ」システムについても、試用の時期をできるだけ早く脱したいと思っています。さらに本院が、本院規模の医療施設での電子カルテデータ活用へ道を開こうと開発したDWH活用ソフト、i-Catch Upについても、その本格活用を、まずは院内で急がねばなりません。宝の持ち腐れとの誹りを受けないよう、こちらも頑張らねば、と思っています。

今年は消費税率アップ、診療報酬改定と我々を取り巻く環境がどう動くか、例年にも増して注目すべき1年になりそうですが、この1年が皆様方にとりまして幸多い年になりますよう祈念申し上げ、この場を借りて新年のご挨拶とさせていただきます。



副院長・感染対策センター長 谷木 利勝

新しい年を迎え、希望の光あふれる1年となるように願い、ご挨拶いたします。

平成25年は病院経営に関する多くのセミナー（学会を含む）に参加しました。参加にあたっては常に、最低限、参加費用に見合うだけの寄与をしなければと思っています。その中でいちばん良かったセミナーは「診療材料購入の交渉術」でした。そこで学んだ交渉の5つのステップを紹介いたします。

- 1) 状況を把握する（交渉前の情報収集）
- 2) 交渉のミッションを考える
- 3) 目標を2つ定める（最高価格と最低価格を決定しておく）
- 4) 同意へ導くための付帯条件を考える（価格以外の支払い条件、安定供給、クレーム対応など）
- 5) 合意できなかったらどうするか考える（他の選択肢や対策案を持っておく）、です。

従来は長年の経験に加え、勘や度胸で対応していた

ことを、データや知識を駆使し、科学的分析結果を持って交渉すれば、未経験者でも上手な交渉ができるようになるというもので、大変参考になりました。

また医療機器に関する委員会では、平成25年度の予算において、当院開設時（17年3月）からの機器全般の老朽化が重なり、やりくりにも苦慮しました。今後数年はこのような状態が続くことでしょう。こうした状況を踏まえ、各方面からの知恵をお借りするとともに、病院の事務部門の方々には「我々が病院経営を引っ張っていく」という気概を持ってもらいたいと、切に願っています。

個人的には25年3月、次男の東京での結婚式で、次男が多くの人たちに慕われ支えられている様子に、感無量の思いを抱きました。また25年6月、高知県国保診療報酬審査委員の会長になり、全国の会長会等で厚労省の動きや最新の情報を得られるようになりました。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



副院長・総合周産期母子医療センター長 医療安全管理センター長 吉川 清志

明けましておめでとうございます。
瞬く間に一年が過ぎてしまいました。皆様、昨年はどうのような年でしたか。

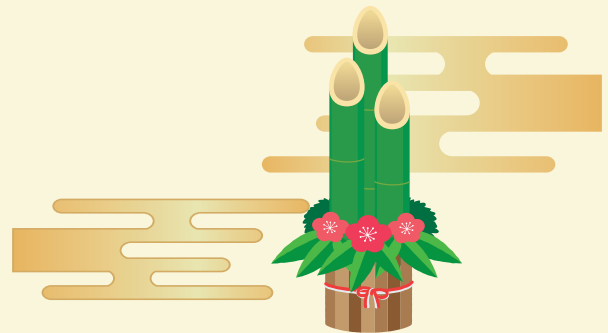
総合周産期母子医療センターは、昨年4月からNICU（新生児集中治療室）を3床増床し12床としましたが、稼働率は98.9%～101.1%と満床状態が続いており、9月には1件の新生児県外搬送がありました。

また、一昨年の2件の母体県外搬送後、ローリスク妊婦の分娩を抑制しハイリスク妊婦を中心に受け入れてまいりました。その結果、当院の分娩数は減少し、それを他の医療機関に少しずつカバーして頂いている状況です。予測される将来の分娩施設減少に対して、産科病床の増床やそれに伴うGCU（新生児治療回復室）の増床を高知県と共に計画し、安心して出産できる高知県の周産期医療体制を維持できるよう努力しております。

医療安全につきましては、患者さんへの影響のないあるいは少ない医療事故（いわゆるヒヤリ・ハット事例）を含め院内の報告体制が確立され、医療事故のレベルに

応じた対応がなされています。その結果、昨年度の医療事故件数は991件で一昨年1,000件とほぼ同数でしたが、レベルの高い3bは208件から164件に減少し、レベルの低い1は490件から523件に増加しており、一定の改善がみられています。しかし、油断すると問題が発生してしまうのが医療安全です。これからは当院職員のみならず、患者さんや他の医療・介護機関と協力する医療安全体制が求められていますので、どうぞ宜しくお願いします。

さて今年午年はどのような年になるのでしょうか、すべきなんでしょうか。皆様、心身ともに健康を維持され良いお年にしてください。



副院長 こころのサポートセンター長 山下 元司

新年明けましておめでとうございます。こころのサポートセンターが開設されて1年8ヶ月が経ちました。

とくに注目すべきは児童精神科が着実な診療を続けていることです。2人の児童精神科医が入院と外来を受け持っていますが、外来については1日に15人から20人超の患者を診察しており、診察に時間を要する児童精神科としては限界に近い患者数でないかと思えます。入院については1日平均5人が入院しており、各種精神疾患患者が入院しています。入院患者数は他の病院と比較しても、スタッフ数からいえば妥当な数字のようです。看護師、臨床心理士、精神科ソーシャルワーカーのチームワークもとれており安定的に発展して行くと思われまます。

成人精神科の外来はかなり制限しておりましたが、昨年9月から高知大学医学部精神科の教授と助教授が定期的に外来診療をしてくださることになり、この新し

い外来枠については特に制限なく受け入れております。とくに急いで精神科の新患診療をご希望の方はこちらをご利用頂きたいと思えます。

当院の規模の病院になると入院していた患者に精神障害が新しく発生したり、もともと精神障害のある患者が身体疾患の治療のために入院したりします。こうした患者への精神科医の早期介入は大事な仕事で、センター長がその任についています。対象者は20名弱ですが、毎朝出勤してみないとその日の大事な仕事が何になるかわからない毎日です。

成人の精神科入院は昨年末に休止したままとなっており、早期の再開が望まれるところですが、高知県全体の精神科医師が減っているなかで難しいところがあります。健康に留意して現状の診療を維持することも大事なテーマのひとつかもしれません。



地域医療センター長 西岡 豊

明けましておめでとうございます。皆様すこやかに新春をお迎えのことと存じます。

日頃は、高知医療センターとの医療連携にご理解とご支援を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

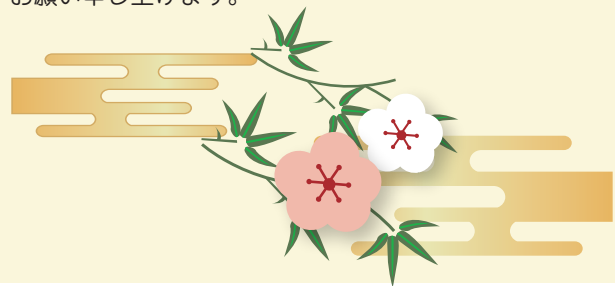
昨年も地域医療センターでは、前方・後方連携業務をさらに推進し、地域の医療機関との連携がより迅速・円滑に行われるように配慮するとともに、連携強化に向けて取り組んでまいりました。一昨年同様、医療従事者の方々に向けての研修会・講習会等を積極的に開催しました。地域医療連携研修会におきましては、今年度より年4回の開催となっておりますが、引き続きたくさんの方々のご参加をよろしくお祈りいたします。

また、昨年度は、39件の医療機関訪問、6郡市医師会の訪問等を行い、より顔の見える開かれた地域医療センターを目指してきました。訪問時には、たくさんの方々にお世話になり、ありがとうございました。おかげ

さまで、昨年度も紹介率、逆紹介率ともに高い水準を維持できました。

また、一昨年4月より導入されましたWEB型電子カルテ閲覧システム「くじらネット」におきましても、おかげさまで利用医登録の先生方が140名を突破しました。今後ますます多くの先生方にご利用をお願いして行きたいと考えています。今年度以降には、地域医療支援病院の認定条件の変更も予定されており、ますます地域の医療機関の皆様方との連携が重要になってくると考えられます。

今年も、高知県の基幹病院の地域医療センターとして、精一杯の努力を重ねてまいりたいと考えております。旧年中と同様、今年もご指導ご鞭撻の程よろしくお祈り申し上げます。



救命救急センター長 喜多村 泰輔

謹んで新春のお慶びを申し上げます。平素より、当救命救急センター業務に際し格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、私が2013年4月に救命救急センター長を仰せつかり初めての新年を迎えました。この9ヶ月間、高知県が東西に広く中山間地域が多いこと、医師・医療機関が県央地域に偏在していること、さらに地域住民だけでなく地域の先生方の高齢化が進んでいること等高知県の地域事情・医療事情を勉強いたしました。

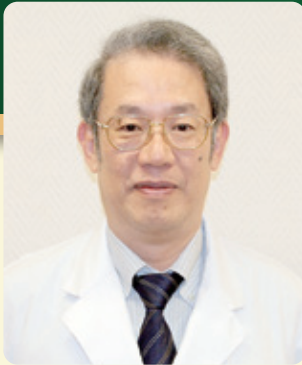
また、地域医療を担っていらっしゃる先生方が、たくさんの方々の外来患者さんに対する日常診療を行う中で、突発的に発生する救急患者さんに対する治療にも積極的にご尽力頂いていることを目の当たりにして、何ともいえない衝撃と感銘を受けました。

これを踏まえ本年も高知医療センター救命救急センターは地域の先生方のお役に立てるよう急性期患者さんの受け入れ体制をさらに強化して参ります。しかし、冬の寒い時期には他の救急医療施設がそうであるように

当センターにおいても救急患者さん入院患者さんが増加し入院期間も延長する傾向にあります。救命救急センターだけでなく高知医療センターをあげて空床確保には努めておりますが、どうしても満床のために救急患者さんの受け入れ・入院をお断りせざるを得ない状況が増加してきております。このような際には市内の3救命救急センター（高知赤十字病院・近森病院）と連携しいずれかの病院での受け入れできるように調整を図っていますが、いずれの病院もほぼ満床で受け入れが困難な時や、手術中で受け入れが困難である状況も少なからず増加しております。

救急患者さんの受け入れをスムーズに行うため、急性期を乗り切った患者さんにつきましては、リハビリテーションを含めた継続加療での早期の転院をおねがいたしますので、早期転院にご理解とご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

本年も救急患者さんの受け入れに全力で取り組んで参りますので、ご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお祈り申し上げます。



がんセンター長 森田 荘二郎

新年明けましておめでとうございます。旧年中は高知医療センターがんセンターに格別のご厚情を賜りまして、心から御礼申し上げます。

がんセンターは、がん診断機能、高精度放射線治療、外来がん化学療法を拡充するとともに、がん患者相談および緩和ケア機能を充実させるため、本館外に別棟で「新がんセンター（仮称）」を整備する方向での検討が進むことになりました。具体的には、診断機能としてPET-CT（またはPET-MRI）の新規導入、高精度放射線治療に対応する放射線治療装置2台導入（現在は1台）、外来がん化学療法の増加に伴いベッド数を増加、そしてがん患者さんへのサービス向上のため、「がん相談支援センター」、「がん患者サロン」、および「緩和ケアセンター」の充実を計画しております。

高知県では少子化により人口減少が予想されていますが、その反面、2025年には団塊世代の方々が後期高齢者の仲間入りを果たし、「高齢化社会」ではなく、まさに「高齢社会」を迎えようとしています。それに伴い3人に2人が「がん」に罹り、2人に1人が「がん」で亡くなるという時代がくると予測されています。がん患者さんの高齢化に伴い、患者さんに優しい治療としての放射線治療、および新しい分子標的薬剤、ワクチン等も含めた抗がん剤治療への期待がますます高まってくるものと考えられます。

がん診療連携拠点病院として、また、高知県のがん治療の最後の砦としての使命を全うすることができるよう、充実した設備を整えたいと考えておりますので、県民の皆様方、医療機関の皆様方、関連諸団体の皆様方のさらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。



循環器病センター長 岡部 学

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

県民の皆様・地域の各医療機関の皆様方には、旧年中より深い御理解と多大な御支援を当循環器病センターに頂きました事を心から御礼申し上げます。

当循環器病センターは、1年・365日・24時間、循環器専門医が常駐し、救急患者の受け入れ直後より専門医による循環器疾患救急治療が提供できるシステムをとっております。受け入れ直後の診断・カテーテル治療から外科手術治療まで、循環器専門医チームによって切れ目ない迅速な治療を行なう事で多くの命を救ってまいりました。今年も、この循環器専門医チームによる高度救急救命医療体制を更に発展強化してまいります。

社会の高齢化に伴う疾患の高齢化・重症化により、特に循環器疾患におきましては、より安全性の高い低侵襲治療と全身状態からみた集学的治療が求められるようになっております。

当循環器病センターは、虚血性心疾患・心臓弁膜症・大動脈瘤・末梢血管の全ての循環器疾患に対し、カテーテル治療から低侵襲手術まで患者の状態に応じた全トッ

プレレベルの循環器低侵襲治療を提供して参りました。

今年、カテーテル治療と手術治療環境をあわせもった最新のハイブリッド手術室が完成し、新しい循環器治療（ハイブリッド治療＝カテーテル＋手術治療）がスタートいたします。この新しい治療設備により、従来は治療困難であった超重症循環器患者の治療が可能となり、当循環器病センターの高度先進医療は新しい時代に突入します。

また、高齢重症患者に対応した集学的な循環器疾患治療としまして、内科・外科治療に加え、看護・栄養・薬剤・リハビリテーション管理の専門家集団による全身管理を充実させることで高齢重症患者の確実な早期回復を実現しております。

今年も、当循環器病センターは、地域医療機関の皆様方のお役に立てることを第一目標に、循環器病センター全職種がチームとして、最先端の循環器治療をご提供申し上げます。

地域医療機関の皆様方には、是非お気軽に当循環器病センターをご利用いただくことをお願い申し上げます。新年のご挨拶にかえさせていただきます。

本年も変わらぬ御支援の程、何卒よろしく申し上げます。



医療法人若水会 むろとぴあ医院

〒781-7103 高知県室戸市浮津 60-1
TEL : 088 (723) 3993
FAX : 088 (723) 3995

(診療科)
内科、整形外科、小児科、外科、消化器科

| 診療受付時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 9:00 ~ 12:00 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | △ |
| 13:30 ~ 17:00 | ● | ● | ● | ● | ● | △ | △ |

(休診日：日、祝日、土の午後)

医療法人若水会 むろとぴあ医院は平成 9 年7月に開院しました。子供～高齢者まで幅広い年齢層の方々が来院されますが、外科、整形外科疾患患者が主です。

現在は医師1名、看護師4名、栄養士1名、他5名、計11名のスタッフで対応しています。

ケアマネジャーの有資格者が2名含まれ、医療・看護・介護における活動を、平成9年7月の開院以降約16年間続けています。

(む：むろとぴあ医院、高：高知医療センター)

高：貴院が現在力を入れていることを具体的にお聞かせください。

む：慢性疾患の進行防止を目的とし、食事療法、運動療法を勧めています。

その為に栄養士による栄養指導、水中運動のできる室戸市の施設利用の説明を行っています。また、禁煙外来を継続中です。

産業医、スポーツドクター、認知症サポート医としての知識や経験を地域の為に生かすことにも力を入れています。

高：地域との連携や他医療機関との連携について貴院での取り組みなどお聞かせください。



地域医療研修に来院された Dr との記念写真 (10月28日)



む：MRI等の検査、手術等の治療の為に入院が必要な方は、室戸市、田野町、安芸市内の総合病院へ紹介しお願ひしています。また、療養介護が必要な場合には、室戸市内の施設に依頼しています。

高：今後、貴院が目指されていくことなどをお聞かせください。

む：変化する医療、看護、介護のニーズを地域性を考慮してきちんと受け取り対処していきたいです。

高：最後に高知医療センターとの連携についていかがですか？

む：高知医療センターでの高度な最先端の医療を受けたい希望者は多く、これからもご紹介を続けることとなりますがよろしくお願ひします。

ご多忙の中、取材にご協力いただきありがとうございます。



医療活動以外にも、室戸市で開催される各種イベント（鯨舟競争、マラソン大会など）に団体、個人で参加し地域の方々と交流をしています。室戸岬一周駅伝競走大会は、開院以来連続で出場し、第28回大会（平成22年1月17日）では優勝しました。

| 日 | 曜 | 高知医療センター イベント情報 1月～ | | | | | |
|---|---|--|--------------------------------------|----|----------------------|----|----------|
| 18 | 土 | 小児科医が知っておきたい臨床遺伝学 vol.2 (参加費無料・事前申込不要) | | | | | |
| | | 内容 | 「救急外来で遭遇する先天代謝異常症」 | 講師 | 千葉県こども病院 代謝科 村山 圭 氏 | | |
| | | | | 座長 | 高知医療センター 小児科 吉川 清志 氏 | | |
| | | 場所 | 高知医療センター 2F くろしおホール | 時間 | 15:00～17:00 | 対象 | 医療従事者 |
| お問い合わせ：高知医療センター・小児科（丸山）TEL 088（837）3000（代） | | | | | | | |
| 18 | 土 | 高知医療センター 看護局集合研修 他施設公開研修プログラム (事前申込要) | | | | | |
| | | 研修名 | 口腔ケア④ | 場所 | 高知医療センター 1F 研修室 2,3 | | |
| | | | | 時間 | 13:00～16:00 | | |
| | | 講師 | 静岡県立静岡がんセンター摂食・嚥下障害看護認定看護師 妻木 浩美 氏 | | | | |
| お問い合わせ：高知医療センター・看護局 教育担当 申込先 FAX：088（837）6766 | | | | | | | |
| 18 | 土 | 高知医療センター 看護局集合研修 他施設公開研修プログラム (事前申込要) ※申込締切 1 / 10 (金) | | | | | |
| | | 研修名 | BLS / AED 研修 (ガイドライン 2010) | 場所 | 高知医療センター 2F スキルラボ室 | | |
| | | | | 時間 | 9:00～12:00 | | |
| | | 講師 | 院内BLSインストラクター | | | | |
| お問い合わせ：高知医療センター・看護局 教育担当 申込先 FAX：088（837）6766 | | | | | | | |
| 19 | 日 | 高新・高知医療センターがんセミナー・2013 (参加費要、事前申込要) | | | | | |
| | | 内容 | 「大腸がん治療の最前線」 | 場所 | 高知新聞放送会館 東館8F 81号 | | |
| | | 講師 | 高知医療センター 消化器外科 医長 寺石 文則 氏 | 時間 | 10:00～12:00 | 対象 | 一般 (70名) |
| | | 主催：高知新聞社、高知医療センター 協賛：アフラック高知支社 主管：高知新聞社 お問い合わせ：高新文化教室 TEL：088（825）4322 (受講料 9600円 / 全 12回、1500円 / 1回) | | | | | |
| 24 | 金 | 第3回 救命救急センターセミナー (参加費無料、事前申込不要) | | | | | |
| | | 内容 | 「ERにおけるめまいに対するアプローチ」 | 場所 | 高知医療センター 2F くろしおホール | | |
| | | | | 時間 | 18:00～19:30 | | |
| | | 講師 | 学校法人聖マリアンナ医科大学 大学病院救命救急センター長 箕輪 良行 氏 | | | | |
| お問い合わせ：高知医療センター 事務局 経営企画課 | | | | | | | |
| 25 | 土 | 第7回 高知医療センター 学術集会 (参加費無料、事前申込不要) | | | | | |
| | | 内容 | 演題発表 10題 (予定) | 時間 | 14:00～ | | |
| | | | | 対象 | 医療関係者、一般 | | |
| | | 場所 | 高知医療センター 2F くろしおホール | | | | |
| お問い合わせ：高知医療センター なるほどライブラリ | | | | | | | |

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。幹部職秘書の池田早苗でございます。まず初めに、昨年は皆様方のお力添えをいただき、実り多い一年となりましたことをお礼申し上げます。

高知医療センターで勤務をさせていただき、医療に従事されている方々のイメージが、私の中で大きく変わりました。それは、生命・健康をあずかるという計り知れない重圧と責任感の中、日々大変な業務をされているにもかかわらず、いつも優しくお声をかけていただき、色々なお話を聞かせて下さいます。また、日々の業務に加え、様々な課題に対して仕事をこなされている様子を近くで拝見し、非常に驚愕いたしました。秘書とは人間関係の潤滑油とも言われますが、私自身、皆様方のお役に立てるように、業務知識の深耕と資格取得等スキルアップを図り、微力ながら精進いたして参ります。本年もより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。(事務局 池田)



平成26年1月1日発行
にじ 1月号 (第99号)
責任者：武田 明雄
編集人：地域医療連携広報委員
特別編集委員
発行元：地域医療センター
地域医療連携本部
印刷：株式会社高陽堂印刷
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL：088（837）3000（代）

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp
Kochi Health Sciences Center Home Page : <http://www.khsc.or.jp/>